

平成 30 年度 第 6 回大垣市社会教育委員の会 議事録

| | |
|---|--|
| 日 時 | 平成 31 年 2 月 5 日 (火) 10 : 00 ~ 11 : 30 |
| 場 所 | 北庁舎教育委員会室 1 階会議室 |
| 次 第 | <ol style="list-style-type: none"> 1 開会のことば 2 「大垣市民の誓い」朗読 3 教育長あいさつ 4 議事 <ul style="list-style-type: none"> 10 : 00 ~ 10 : 10 「大垣市民の誓い」朗読、教育長あいさつ 10 : 10 ~ 10 : 40 社会教育振興計画の振り返り 10 : 40 ~ 11 : 20 益川先生の講話「地域社会と学校の連携と協働」 11 : 20 ~ 11 : 30 諸連絡等 5 閉会のことば |
| 出席者【委員 9 名、事務局 11 名、計 20 名】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・委員 <ul style="list-style-type: none"> 三宅 治、竹中 昌子、稲川 明子、平野 宏司、安田 義明、小藪 卓郎、益川 浩一、松山 昌代、神谷 利行 ・事務局 <ul style="list-style-type: none"> 山本 譲 (教育長)、守屋 明彦 (教育委員会事務局長)、安藤 亨 (まちづくり推進課長 兼 市制 100 周年記念事業推進室長)、杉田 昭子 (市民活動推進課長)、浅井 靖弘 (子育て支援課長)、山下 直人 (教育庶務課長)、細江 敦 (学校教育課長)、中山 健一郎 (社会教育スポーツ課参事)、窪田 美保 (社会教育スポーツ課主幹)、山田 嘉隆 (社会教育スポーツ課主査)、小原 良次 (社会教育指導員) | |
| 欠席者【委員 1 名、事務局 3 名】 | |
| 岩下 里美、坂 隆 (キッズピアおおがき子育て総合支援センター所長 兼 南部子育て支援センター所長)、中井 正幸 (文化振興課長)、堀 恭寿 (社会教育スポーツ課長) | |
| 傍聴者【1 名】 | |
| 事務局 | 開会の言葉 黙とう |
| 全員 | 「大垣市民の誓い」朗読 |

| | |
|-----|--|
| 教育長 | <p>あいさつ</p> <p>平素からの社会教育の振興に改めてお礼を申し上げる。</p> <p>河村委員さんには、長年にわたり、文化芸能とりわけ音楽の面からご提言をいただいていた。心からご冥福をお祈りしたい。今回から、稲川委員さんにお世話になる。よろしくお願ひしたい。</p> <p>この1月に行われた社会教育推進員の会で、モデル地区の江東地区に発表していただいた。江東地区の昭和のころの写真や記録を映像化して紹介する取り組みだった。昭和30年代の堀田の様子、子どもたちが遊んでいる様子、江東地区の祭りの様子、大垣ICの工事の様子など、懐かしい写真をたくさん紹介いただいた。また、古い地図や学校の工事の様子、江東小学校の移り変わりの様子など出てきた。これらは、かがやきクラブの方、江東民俗資料館の関係者の方をはじめ、58人で制作され、実に多くの方が関わられて映像化された。この発表を聞きながら、着実に社会教育を推進していただいていることを感じ、その取り組みに感動した。</p> <p>今日は1年間の社会教育振興計画の振り返りと益川先生の講話である。充実した会になることを祈念して、あいさつとする。</p> |
| 事務局 | <p>新しい委員さんの紹介（委嘱状は机上に）</p> <p>ここからの議事進行は、三宅議長にお願いする。</p> |
| 議長 | <p>※ 審議会公開の報告</p> <p>※ 傍聴人の許可（この日の傍聴人は「1名」）</p> <p>議事に入る。今回は、社会教育振興計画の振り返りと益川先生からの講話である。今年度の評価については、それぞれの委員の皆様へ評価をしていただき、思いを書いた。事務局から実績と評価について説明を願う。</p> |
| 事務局 | <p>委員の皆さんには、答えにくい項目がある中で、評価にご協力いただき、感謝を申し上げます。簡単に説明をした後、今日は課題を絞って、討議していただければと思う。</p> <p>数値については、四角で囲った数字が今年度の数値で、あくまで社会教育委員の皆様へ評価の平均値である。小さく記した数値は昨年の数値である。記述していただいたものは、そのまま文章として載せた。</p> <p>全体としては、おおむね昨年並みの数値である。個別にみると、P.4「地域づくりの推進」は、全体に高い評価をいただいている。今回はモデル地区である静里地区、江東地区に発表をしていただいた。各地区の推進事業</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>については、昨年並みの 91 事業で、91/96 と非常に高い実施率であった。この地域社会教育推進事業は、補助金（2 万円／1 事業）をもとに、地域で非常に熱心に推進していただいている。P.5「学校支援」については、若干数値が低くなっている。実際には、学校支援コーディネーター、学校支援ボランティア共に増えているが、外から見えにくいところもあり、停滞しがちととらえられる。今後は、学校支援ボランティアの得意分野を生かして、他地区にも支援に行けるようにして行くことを考えている。今後は、来年度に向けて、人材バンクのようなものを整備し、内容によっては、他の校区にも行けるようなシステムを考えている。P.6「連携について」は、今年度意識して、皆さんにもご紹介したこともあり、おおむね数値は上がっている。地域の推進事業の約 75%は、どこかとの連携である。最も多い連携先は、地区センター、連合自治会である。ついで、社会福祉協議会、小中学校及びPTA であり、各地区の実情に応じて連携し、事業を展開している。企業との連携については、金銭面での援助、物品の借用等考えられるが、更なる連携は、今後の課題である。</p> <p>その他多くのご意見をいただいた。今日は、地域活動における連携、学校と地域の協働活動について少し絞って、意見をいただきたいと考える。</p> |
| 議長 | <p>提案にあったように「地域の活動推進の連携」と「学校支援と地域連携」に焦点を絞って、意見を出していただきたい。</p> <p>自治会との連携も数値が上がったとのことだが、いかが思われるか。</p> |
| 委員 | <p>先日「子どもの意見を聞く会」に出席した。内容的には、高齢者に関するものが多かった。子どもたちからも「家族の絆を大事にしよう」との言葉が多く聞かれた。社会教育推進員はお年寄りの関係が多いが、子どもたちにとっても、社会教育推進員、自治会、社協が一本になって活動すれば、子どもたちに一層、お年寄りを大切に作る気持ちが高まると思う。こうした会にも、社会福祉協議会の局長を交えて、意見交換をすることも大切であると思う。学校支援コーディネーターについては、まだまだ私たちが見えてこないところもたくさんある。これらも地域と連携を取って、あるいは他地区のコーディネーターと連携を取って、柔軟に活動を展開できればと思う。連合自治会としても、社協と連携を取り、両輪で活動を展開することを確認している。</p> |
| 議長 | <p>自分も連合自治会長として、社会福祉協議会と連携して取り組んでいる。その中で、子どもたちと高齢者の関わり、地域の人々と高齢者の関わりな</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>ど、多くのつながりがある。社会教育で活動していることと深い関わりがある。共に活動していくことが大切だと考える。</p> |
| 委員 | <p>私の校区でも、今月「3世代の意見を聞く会」を計画している。幸い、審査委員も受けたので、事前に多くの作文に目を通すことができた。その中で、子どもたちは「地域の大人に交わりたい」という思いを持っていることを感じた。今年も大人から子どもまで13人の発表がある。応募総数は100名だったが、10人に絞った。朝晩の登下校の見守り隊の方に見守られているといった作文があった。先日、上石津の学校訪問で、老夫婦と一緒に活動している風景を見かけた。授業時間に地域の方が入り、一緒に活動を行っている姿に、地域に溶け込んだ学校を感じた。</p> |
| 議長 | <p>PTAも様々な活動、地区センターとの連携もしていると思われるが、その点でいかがか。</p> |
| 委員 | <p>PTAとしては、会長は自治会長とのつながりはあるが、一般の役員と自治会とのつながりはあまりない。広く地域の母親、女性と活動ができることが望ましいと考えている。学校支援ボランティアについては、校長先生からももっと増やし、多彩な活動を展開することを聞いている。そのために、学校と保護者とコーディネーターが連携して進める必要があると考える。</p> |
| 委員 | <p>評価者は昨年と変更はあるか。同じならば、数値の変動があるにとらえる。私自身は少し辛口の評価をした分野と素晴らしいと感じたものがある。重点項目として、特に評価をしてほしい部分があれば、文章を書き足すので、今後は明確にしてほしい。1～4の評価であれば、0.4（10%）の伸びがあれば、これは大きな変化にとらえてもよいと思う。例えば、学校支援コーディネーターについても、数値で表せないことは、感覚的になりがちであるが、これを数値化することは非常に難しい。数値目標が常にふさわしいわけではないが、目標とする数値を明らかにして、今後評価できればよいと思う。</p> <p>また、こうした会議、学習機会が年度末にどの評価ポイントになるかを明らかにして、開催していくことも大切ではないかと考える。逆引き辞典的な発想であるが、常に評価目標を見据えて、取り組めるとよいと考える。</p> |
| 議長 | <p>学校連携と地域については、大垣市はエリア型地域づくりを意識し、社会教育推進員が置かれている。そして、学校との連携の中で、学校支援コー</p> |

| | |
|----------|---|
| 委員 | <p>ディネーターが各小中学校に置かれている。これが、大垣の大きな柱である。先日、学校評議員会の中に社会教育推進員が設置されているかを聞いたところ、ほとんどの学校が位置付いている。地域の中の学校、地域協働活動を推進していく中で、大切かと思うが、この点では、いかがだろうか。</p> <p>学校ボランティア活動は、年々盛んになっていると感じている。9月に校長会で「学校支援ボランティアがどんなことをやっているか」と交流する場があった。この場で、本当に多種多様で、授業支援、授業指導をはじめ、環境整備に入ってもらったり、先生方の業務を助けてもらったりしているケースもあった。私自身、「そんな仕事までやってもらっているのか」と驚くほどであった。ただ、各学校の温度差も感じた。私の学校（綾里小）では、PTA 総会で子どもを預かってもらうぐらいのことしかない。ただ、お米づくりをはじめ、すでに多くの方にお世話になっている。こうした方々は、ボランティア組織に移行していない。ボランティア組織を使うという点では、遅れているかもしれない。また、落ち葉拾いは、子どもたちもボランティアとして動いている。こうした子どもたちのボランティアと地域のボランティアと一緒に活動することもよいことだと思う。校長会では、情報交流、共有をしたので、各校長で学校支援ボランティアの構想を持っているかと思う。ただ、職員が変わっていつてしまうので、やはり、社会教育推進員さんと教頭は、気軽に連絡を取ることが必要だと考える。</p> |
| 議長 | <p>地域では、社会教育推進員の方がかなり活動されるようになった。社会教育推進員さんは、ぜひ学校評議員会に出て、ボランティアの組織を校長、教頭と協議して作っていく段階になるかと考える。</p> <p>かがやきライフ推進部との連携について、課長から意見をいただきたい。</p> |
| 市民活動推進課長 | <p>今年度は、NPO 法人の上石津での活動を聞いていただけでよかった。</p> <p>市民活動推進課では、立ち上がって間もない団体には補助金を出している。本年度、小学校対象の鍵盤ハーモニカの授業の補助する団体が最近立ち上がった。この団体には、補助金を出している。小さな団体ではあるが、地元の小学校から活動を展開している。その際に学校にチラシで紹介したいとの依頼があり、学校に直接出向かれた。チラシの効果もあり、予想より多くの子どもたちが参加することができた。保護者からもとてもよかったと意見をいただいている。これがまた団体の励みになり、うれしく感じていた。こうした活動は、審査会の折に学校教育課には情報が入っているが、共有は十分ではない。私の課で持っている情報を教育委員会とも共有</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| | <p>すると共に、もう少しアピールしてもよいかと感じている。広く周知されることで、団体さんのやりがいにもつながり、更なる活動が期待される。</p> |
| <p>まちづくり 推進課長</p> | <p>地区センターは市内に 18 あり、いずれも指定管理者として、各地区の運営委員会に委託している。多くは連合自治会長が運営委員長を兼ね、女性連合会など様々な形で委員さんが入っている。館長は市役所の OB が多いが、いずれも子どもの教育には熱心で、まるごと土曜学園には力を入れている。事業内容の要望等は、運営委員の方に言っていただくのがよいと思う。</p> <p>利用の実態は高齢者が中心である。高齢化は進んでおり、利用団体の構成員が減ると、利用実績が下がるようである。社会教育という点で、学校外の活動になるが、今後事業を充実させるように呼びかけている。現状の報告である。</p> |
| <p>委員</p> | <p>地域では、自治会長中心に地区センターを活用することが大切だと思う。子どもにとって、安全地帯といえるだろう。地区センターは交流の場でもある。ここから横のつながりを深めていくとよいと思う。なかなか地域でも顔を合わす機会が少ないので、ぜひ交流したい。私が関わっている土曜教室の「絵手紙」では、100%が出席である。私が難しいかなと感じた題材でも、子どもたちは一生懸命に取り組むことができる。また、様々な委員会にも学校の教頭先生が参加されて大変かと思うが、地域の方との交流も深まっていると感じる。地域に関わる多くの方が、つながりをもてるとよい。ここでの活動をぜひ若い人に伝えていきたいと考えている。地域の力は素晴らしいと感じている。今後も大切にしたい。</p> |
| <p>教育長</p> | <p>貴重な意見をたくさんいただき、感謝を申し上げます。</p> <p>社会福祉協議会との連携、あるいは学校支援ボランティアとの連携など、さらに幅広く連携していければよい。子どもたちがもっともっと活躍できる場を工夫できればとも思う。これらの意見を来年の計画に生かしていきたい。</p> |
| <p>議長</p> | <p>振興計画の振り返りについては、ここで終了し、益川先生の講話に移る。</p> |
| <p>益川先生</p> | <p>先ほどから、学校支援のことをはじめ、社会教育を充実させようという動きを進めていこうという雰囲気が感じられてとてもよい。今年度も社会教育主事講習に参加され、主事を取られたとのこと。また、社会教育指導員</p> |

の方も地域に入られ、とてもよい活動ができていると思う。こうした中で、社会教育推進員、学校支援コーディネーターと連携を深めながら進めていく体制もよい。今回、学校と地域の連携、支援が話題に上っている。この点について、改めてお話ししたい。

なぜ、学校と地域の連携がこれほど声高に叫ばれるかと言えば、学校から見ると次の点があげられる。

①「多様化する社会に対応する」

学校の指導内容、指導方法は非常に多様化している。体験学習なども重視され、地域の役割は大きくなっている。また防災教育、キャリア教育なども地域との連携が必要である。こうした指導を充実させるためには、多様な経験を積んだ地域の方々の力は必要である。例えば、職業体験等となると、企業も含めて多様な主体が子どもたちに関わっていかねばならない。そうした現状に、様々な連携が必要と感じている。

②「生活習慣の是正」

学力向上、生徒の問題行動、子どもの貧困など、様々な問題がある。文科省は「早寝、早起き、朝ごはん」を提唱している。しかし、問題行動の根底には、生活習慣の乱れがある。こうした子どもたちの課題を見た時、情報を家庭と地域で共有しないと解決できない。こうした現状もあり、学校と地域と家庭の連携の必要性が叫ばれるようになった。

③「働き方改革の一環」

先生方の忙しさ、ブラックと呼ばれる現状に対し、地域の支援がないと、先生方の子どもと話す時間が確保できない、子どもと向き合うことができない、といった問題がある。

今、学校教育の現場からも、地域との連携が声高に叫ばれるようになった。東北の震災時に、仙台市の多くの学校が避難所になった。ある学校の避難所運営に目を向けると、最初の3日間は先生主体で避難所を運営した。次の4日間は、地域の方と先生方で一緒になって運営を進めた。1週間後はすっかり地域の方の運営になり、新年度は3日遅れぐらいで、学校が始まり、正規の授業が再開できた。つまりこの学校は、普段から地域との連携がうまくいっていて、避難所の運営を地域の方に任すことができたことが大きい。そのおかげで、先生方は早々に授業の開始に尽力できた。宮城県内の校長先生の聞き取り調査で、学校支援本部を設置している学校20校と、設置していない学校20校と比べ、避難所の自治組織の立ち上げを調べた。支援本部を設置していた学校は、普段から地域とうまくいっており、非常に順調に避難所の運営を地域に任すことができた。また普段の連携がうまくいっていなかったところは、避難所をめぐり、混乱が見られた。地

域と学校の連携を表す事例として、よく取り上げられる事実である。震災が特異な状況を作り出したとはいえ、学校もしっかりと地域に根差していく必要があると考える。

しかしながら、学校は地域の砦であることもあり、多くの方が地域の子どもに関わり、すべての子供たちの成長を地域の大人で見届ける、そのために地域で学校を支えていかねばならない、といった関係性を築いていかねばならないと改めて確認された。このように震災を通して、学校と地域の連携の大切さは明確に示されている。

次に学校支援の仕組みについては、大垣市については、学校支援コーディネーターを中心に、社会教育推進員が関わって展開されており、国の動きどおりである。支援の中身については、いろいろあると思う。ゲストティーチャーとして指導に入ることもあるし、印刷等の補助もある、あるいは得意技を生かした指導もあるが、まずは「環境サポーター」側から入るのがやりやすいと考える。子どもたちの学ぶ環境を外から整備する。比較的誰でも参加できるところから入るとやりやすいと思う。

これを地域から見ると、地域の教育力の向上、地域での学習の成果を生かすこと等、高齢者をはじめ地域の方の生きがいがづくり、やりがいがづくりにつながると考える。こうした取り組みの中で、学校と地域、地域の人同士のつながりができ、連携が深まると考える。これが「学校を核とした地域づくり」と言える。

別の資料がある。全国学力・学習状況調査の分析の一つである。A群は「学力テストが全国平均を5ポイント以上高い学校」である。B群は「5ポイント以上低い学校」である。A群の学校では、学校の教育活動に地域の方が数多く参加しているという結果が出ている。同時にB群の学校では、地域の方はあまり学校に入っていないという結果が出ている。つまり、「保護者や地域住民が学校に多く入っている学校ほど成績が良い」という傾向がある。地域の協力連携は、少なからずその学校の子どもの学力にも影響があると言われている。同様に「地域の人材を外部講師等で招いた授業を行いましたか」の質問では、学力テストの結果が高い学校は、外部講師をよく招いたという傾向がある。こうした傾向は、中学校も同様である。文部科学省では、「積極的に地域が参画していたり、地域資源を活用したりしている学校は学力が高い傾向にある」とコメントしている。もちろん学力を高めるために、地域連携を進めているわけではないが、実際にこうしたところにも影響がみられることは注目されている。

最近の動向に目を移す。学校の方も社会とのつながりに目を向けている。学習指導要領の改訂の中に3つのキーワードがある。「①社会に開かれた

教育課程」がある。これは「学校の授業を社会に開かれた形で進めましよう」というものである。地域の人的・物的資源を活用したり、社会教育との連携を図ったりし、教育を学校内に閉じ込めることなく、目指す姿も地域と共有し、一緒に取り組むことで子どもを育てることが、最近の流れである。次に「②アクティブラーニング」がある。主体的、対話的で深い学びと言われるが、例えば学校の授業で、子どもたちが動きながら、実践的に学んでいくことである。ここでも地域の方との会話が大切で、教室内で単に先生の話聞くだけでなく、地域の方の話を聞いたり、地域に出かけて調べたり、子どもたちが主体的に動いていく、地域の方と対話して、子どもたちが視点を広げていくことが重要とされている。最後に「③カリキュラムマネジメント」である。外部の資源を教育内容に組み合わせて、教育活動を行うものである。指導要領の改訂の中でも、地域とのつながりは謳われている。大垣市は、こうしたことを踏まえ、重層的な指導体制になっている。今後はこれらの仕組みを生かして、活発に事業が展開されることを期待する。

社会教育に関わって、近年の動向を見たい。社会教育法の改正（H29）に伴い、「地域学校協働活動」という言葉が出てくるようになった。読んだとおり、地域と学校が協力して学校を支え、地域の子どもたちを育てると共に、地域住民にとっても地域づくりを通して活性化を図るというものである。例えば、放課後の体験学習なども地域学校協働活動に入れてよい。大垣市でも岐阜経済大学の協力を得て行っている放課後の学習会がある。国では地域未来事業と言っているが、地域のボランティアによる事業もこれに入る。もちろん家庭教育支援も入るし、土曜日の教育活動も入る。ありとあらゆる活動が、子どもの成長を願って、地域と共に行われる中で、これらを総称する形で、地域学校協働活動が使われるようになった。地域学校協働活動が確実に行われることで、子どもは豊かに育ち、地域のつながりができることを確認したい。この言葉が、法律の条文に入っていることは、国の政策であると受け止めたい。

もう1つ重要なことは、この活動を支える役割である地域学校協働活動推進員を市町村の教育委員会で委嘱することができることと規定されていることだ。コーディネーターもしっかりと法律上に位置付けて、人材育成、人材の発掘、養成が示されているが、大垣市はすでに行っていることであり、目標にも挙げられているので続けてほしい。名称は市町によって異なるが、こうしたコーディネーターが法律に明記されたことには意義がある。日本は法治国家であるから、大きな意味をもつ。これらのことを体系的に進めていこうという姿勢が示されている。

文科省は生涯学習政策局を廃止して、総合教育政策局をつくり、筆頭局にした。総合教育が意味するところは、学校教育、社会教育、家庭教育を意味し、確実に連携しながら、子どもたちの育ちを支えると共に、その活動を通じた地域づくりが大切とされている。法律上の位置づけはもちろん、政策上も動きが出ている。大垣市がやろうとしていることは、これらの流れと一致している。

学校と地域は両輪として推進していくことを話してきたが、現在学校のこうした業務は教頭が持っているところが多い。地域連携担当教員を事務分掌として位置づけて、学校の窓口、コーディネーターとして行くことも必要である。一方、地域側も地域学校協働活動推進員を置いて、ここを窓口としながら、連携を図る必要がある。地域学校協働本部をつくり、学校との連携を図るとよい。大垣市はこれまでの歩みの中で、現在ある役割をいかに発展させていくかが大切だと考える。

先ほど、学校評議員会に社会教育推進員が入っているかどうか話題になったが、地域学校協働活動推進員は学校評議員会に入るように示されている。こうした連携も大切である。これまでは一方通行で、「地域の力を学校の支援に」だけであったのが、協働なので、学校と地域は相互的に関わることになる。

地域が学校に入ることで、子どもたちのコミュニケーション能力が上がった、あるいは、地域への理解、関心が深まったとの報告もある。支援ボランティアが活発な所では、成績が良いとの報告もある。また、働き方改革につながる可能性があることも示されている。地域の方でも、地域の教育力の向上、地域住民の生きがいつくり（70%）、自己実現（74%）につながり、成果も出ている。連携は学校、地域いずれにも効果がある。

ここで注意したいことは、連携が目的になり、その先を見失っている傾向が見られることである。学校運営協議会、地域学校協働活動本部、いずれも作ることが目的ではない。現状では、作ることが目的になっているところもある。これらはあくまで手段であり、子どもの豊かな育ちを保障すること、地域の活性化につなげること、生きがいつくりにつなげることなどが、あくまで目的である。すでに動いているところは、改めて組織を作るよりも「あるもの生かし」の発想でよい。原点を忘れないようにしたい。とはいうものの、組織を作ることは反対ではない。学校職員には異動がある。協働体制を長続きさせるためには、組織をつくり、引き継いでいくことも大切である。

土曜日に学習支援をしているところ、校内の巡回活動をしているところ、青少年健全育成、非行化防止の観点で進めているところもある。また、滋

| | |
|----|---|
| 議長 | <p>賀県の竜王では、公民館が核になりながら、学校と地域をつなげる組織として活動している。いずれも子どもたちの育成、地域の活性化で大きな役割を果たしている。お互い、目的を忘れずに取り組みたい。</p> <p>新聞報道にもあった通り、来年度から岐阜県と岐阜大学は岐阜地域学校協働活動センターを岐阜大学内に設置した。県と岐阜大学が予算を出し共同設置の形で作った。ここでは、コーディネーターの養成に向けた研修、大学生がボランティアに出て人材育成、あるいは確保、学校と地域の連携に関わる調査研究、こうしたことを県内に広めていく普及活動を柱として進めていく。先日こうした内容をもとに、岐阜県知事と岐阜大学学長の間で協定を結んだ。今後、活動を進めるうえで、こうした機関を使っていくことも一つの方法である。</p> <p>以上で話を終わる。</p> <p>以上で、議事を終了する。</p> |
|----|---|

上記のとおり、会議の次第を記載し、その相違のないことを証するため、ここに署名する。

議事録署名者 _____